



International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

プログラムの基準と実践要綱



International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

プログラムの基準と実践要綱

プログラムの基準と実践要綱

2018年10月発行、2019年3月、2020年4月、2022年4月改訂の英語原本『Programme standards and practices』の日本語版
2018年10月発行、2019年3月、2020年4月、2022年4月改訂

本資料の翻訳・刊行にあたり、文部科学省より多大なご支援をいただいたことに感謝いたします。

発行者 非営利教育財団 国際バカロレア機構 (International Baccalaureate Organization) 15 Route des Morillons, 1218 Le Grand-Saconnex, Geneva, Switzerland

International Baccalaureate Organization (UK) Ltd
Peterson House, Malthouse Avenue, Cardiff Gate
Cardiff, Wales CF23 8GL
United Kingdom
ウェブサイト: ibo.org

© International Baccalaureate Organization 2018

国際バカロレア機構 (以下、「IB」という。) は、より良い、より平和な世界の実現を目指して、チャレンジに満ちた4つの質の高い教育プログラムを世界中の学校に提供しています。本資料は、そうしたプログラムを支援することを目的に作成されました。

IBは、資料の中で利用する多様な情報源について、情報の正確さと信憑性を確認します。ウィキペディアのようなコミュニティーベースの知識源を使用する際には、特に留意します。IBは知的財産の原則を尊重し、利用する著作物すべてについて刊行前に著作権者を特定し、許諾を得るよう常に努力します。IBは、本資料で利用した著作物に対して許諾をいただいたことに感謝するとともに、誤記および遺漏がありました場合には、可能な限り早急に訂正いたします。

本資料に関するすべての権利はIBに帰属します。事前にIBから書面での承諾を得るか、「[Rules for use of IB Intellectual Property](#) (IBの知的財産に関する規則)」において明確に許可されている場合を除いて、形式と手段を問わず、本書のいかなる部分の複製、検索システムへの保存、および送信を禁じます。

IBの商品と刊行物は、[IB Store](#)でお求めください (email: sales@ibo.org)。有償か無償かに関わらず、第三者 (チューターや教員養成の提供者、教育関連の出版社、カリキュラムマップ や教師用デジタルプラットフォーム の提供者や運営者など) がIBのエコシステムの中でIB資料を商用利用するためには、書面によるIBからのライセンス発行が必要です。ライセンスの申請はcopyright@ibo.orgまでご連絡ください。より詳細な情報はIBのウェブサイトを参照してください。

IBの使命

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野を持つ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキル身に付けます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じて持ち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えにに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語や様々な方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念を持つ人

私たちは、誠実かつ正直に、公平な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とその結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経歴の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多岐な視点を求め、価値を見出し、その経験を糧に成長しようと努力します。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界をよくするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考え方や方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちが生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えおよび経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクールが価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域や社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

目次

プログラムの基準と実践要綱	1
プログラムの基準と実践要綱とは	1
基準と実践要綱の枠組み	2
目的(01)	4
目的：重要な使命の共有	4
環境(02)	5
環境：必要不可欠な構造、システム、およびリソースの提供	5
文化(03)	11
文化：肯定的な学校文化の創造	11
学習(04)	14
学習：効果的な教育の保証	14
付録	23
注釈	23
用語の解説	27
参考文献	33

プログラムの基準と実践要綱とは

プログラムの基準と実践要綱は、学校と IB がプログラムを実施するにあたり、その品質と忠実性を保証するための基礎となる一連の原則です。本ウェブサイトは、国際バカロレア (IB) の認定を受けた「IB ワールドスクール」と候補校にとって、不可欠な資料の一つです。IB のすべてのプログラムの設計、実施、開発、および評価についての重要な情報は、以下の資料において提供しています。

- ・ 本ウェブサイト『プログラムの基準と実践要綱』では、IB ワールドスクールとしての基礎となる諸事項を明確に述べています。
- ・ 各学校が認定を取得し、維持するプロセスについては、認定と評価に関する IB 資料で明確化しています。
- ・ 法的な規定については、IB プログラムの実践に関連する諸規則と総則に関する資料で明確化しています。

上記のすべての資料は [IB の公開ウェブサイト](#) または [プログラム・リソース・センター](#) で入手できます。

『プログラムの基準と実践要綱』では、IB ワールドスクールが、「初等教育プログラム (PYP : Primary Years Programme)」、「中等教育プログラム (MYP : Middle Years Programme)」、「ディプロマプログラム (DP)」、「キャリア関連プログラム (CP : Career-related Programme)」の 4 つの IB プログラムの実施の成功度を測るための評価規準を提示しています。

これらの**基準**は、IB ワールドスクールの核となる一般的な原則であり、**実践要綱**はプログラムの実施にあたっての参照事項も含め、基準をさらに具体的に定義したものです。**要件**は実践に関するより具体的かつ洗練された対策であり、仕様とされるプログラム固有の要素を含みます。基準と実践要綱、要件とプログラム仕様は、IB プログラムを適切に実施するために不可欠です。

基準と実践要綱の枠組み

枠組みについて

プログラムの基準と実践要綱は、目的、環境、文化、および学習の4つの主要カテゴリーに分類されています。この4つのカテゴリーは、学習を中心に置き、IBの理念と学校独自の文脈をその周りに配置した枠組みの中に組み込まれています。

この枠組みは、学校のデザイン、開発、進化のプロセスを説明します。この枠組みは、IBの理念が各校独自の文脈の中で具現化されており、枠組みの要素のそれぞれが相互依存していることを前提としています。この枠組みには、他の要素との関係性を考慮せずに開発できる部分はありません。この枠組みは、IBプログラムを開発する際に学校が直面する成功と課題の両方を説明するのに役立ちます。

これは包括的な枠組みです。また、以下の特徴を通じて、IBワールドスクールコミュニティの中心に学習を据えます。

- ・ IBの理念を各学校固有の文脈の中に適切に統合する
- ・ 教育への確固としたアプローチを構築する IBの使命と目的を共有する
- ・ 効果的な構造、組織の実践、およびリソースに支えられた学習環境を開発する
- ・ 包括的で、開放的な学習コミュニティを中心とするダイナミックな学校文化を醸成する
- ・ 地域社会、国、国際社会などの文脈に前向きな影響を与える
- ・ 学生にとって可能な限り最高品質の学習経験を創造する

学校のコミュニティは、IBと共により良い世界を作る質の高い教育を創造します。

各セクションおよびその中の基準についての詳細は、以下の画像に表示されています。枠組みの各要素の定義については、用語解説をご覧ください。



目的：重要な使命の共有

IB の使命は、学校や政府、国際機関と協力しながら、要求度の高い国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みを開発することを中心とします。すべての IB プログラムは、人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てることをねらいとしています。学習を推進するこの力強い使命は、各 IB ワールドスクールのみならず、IB の児童生徒とその家族、教師、および支援者から成るより大きなグローバルコミュニティの発展に寄与するものです。IB ワールドスクールは自らの地域、州、国、国際社会、および世界規模の文脈でこの目的を実現するため日々努力しています。

基準：目的(0101)

学校は、IB プログラムの実践により、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良く、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者を育成することを目的とする

実践要綱

目的 1：学校の統括組織および学校リーダーは、IB の理念と使命に沿って、学習目的を明確化すること(0101-01)

目的 1.1：学校は、IB の使命と理念を反映する使命、構想、および戦略を開発すること(0101-01-0100)

目的 1.2：学校は、学問的発展のみならず、個人や個人の属する地域社会を超えた意識をもつことを奨励する、教育に対するホリスティック（全人的）なアプローチも含めた、使命、理念、および戦略（またはそのいずれか）を開発すること(0101-01-0200)

目的 2：学校の教育的リーダーシップチームは、児童生徒が能動的で思いやりのある、生涯にわたり学び続ける学習者になることを奨励する教育的アプローチを採用すること(0101-02)

目的 2.1：教育的リーダーシップチームは、IB の使命と理念への共通の取り組みを明確化すること(0101-02-0100)

目的 3：学校のコミュニティは、「IB の学習者像」のすべての人物像を体現する国際的な人材を育成すること(0101-03)

目的 3.1：学校は、学校のコミュニティが「IB の学習者像」を認識し、国際的な意識と IB の使命を具現化することの重要性に対して献身的に取り組むようにすること(0101-03-0100)

環境：必要不可欠な構造、システム、およびリソースの提供

学校環境には、学習経験にかかわる人材、自然資源、設備、および仮想的なリソースが含まれます。設備、テクノロジー、人材、金銭的なリソース、文化的・言語的資産、時間配分、学校がどのように責任を分担し、まとめ、コーディネートするかが対象となります。学校環境は多岐にわたるもので、地域独自の幅広い文脈は IB プログラムの実践を成功させる助けとなります。学習環境とは学習が起きる文脈であり、児童生徒の学習経験を豊かにするために学校がデザインし発展させる状況を指します。学習環境には、学校の文化と目的のエビデンスが含まれます。

基準：リーダーシップおよび統括体制(0201)

IB ワールドスクールのリーダーシップおよび統括体制は、質の高い学習環境を創造し維持するものであること

実践要綱

リーダーシップ 1：学校は、プログラムの実践と現在行われている開発をサポートするため、すべての IB 規則、規定、およびガイドラインを定期的に見直し、遵守すること(0201-01)

リーダーシップ 1.1：学校は、統括およびリーダーシップの体制（またはそのいずれか）を明確に示し、プログラムの実践および開発を確実にを行うための役割、責任、および義務を確立すること(0201-01-0100)

リーダーシップ 1.2：リーダーシップおよび統括担当者は、すべての IB 規則、規定、ガイドラインを理解し、それらの遵守を確実にする構造とプロセスを整備すること(0201-01-0200)

MYP1：（該当する場合）学校は、紙媒体か電子形式かを問わず IB の評価資材を保管、送付、送信する際は、その安全性を確保し、指定されたスタッフにのみアクセスを認め、これを管理すること(0201-01-0221)

MYP2：（該当する場合）学校は、MYP の e アセスメントの実施に際して、IB の規定と手順を遵守すること(0201-01-0222)

MYP3：（該当する場合）学校は、MYP の 5 年次の生徒すべてを、パーソナルプロジェクトの IB により認証されたモデレーションに登録すること(0201-01-0223)

MYP4：学校は、IB の MYP 修了証の志願者として 1 人以上の生徒を登録すること、またはプログラム資料で指定された単元計画を提出してフィードバックを求めること(0201-01-0224)

DP1：学校は、紙媒体か電子形式かを問わず IB の評価資材を保管、送付、送信する際は、その安全性を確保し、指定されたスタッフにのみアクセスを認め、これを管理すること (0201-01-0231)

DP2：学校は、あらゆる形式の評価の実施に際して、関連する IB の規定と手順を遵守すること (0201-01-0232)

CP1：学校は、紙媒体か電子形式かを問わず IB の評価資材を保管、送付、送信する際は、その安全性を確保し、指定されたスタッフにのみアクセスを認め、これを管理すること (0201-01-0241)

CP2：学校は、あらゆる形式の評価の実施に際して、関連する IB の規定と手順を遵守すること (0201-01-0242)

CP3：学校は、いかなる場合においても、IB の規準を満たすキャリア関連教育を選択または開発すること (0201-01-0243)

リーダーシップ 2：学校の教育的リーダーシップチームには、IB プログラムの実践を成功に導く権限を与えられた IB の訓練を受けたプログラムコーディネーターを含めること(0201-02)

リーダーシップ 2.1：学校は、カリキュラムとプログラムの開発を促進するため、職務内容、担当授業時間数、必要なサポートと組織内のポジションを提示し、プログラムコーディネーターを任命すること (0201-02-0100)

リーダーシップ 2.2：プログラムコーディネーターは、自己の責任下にあるプログラムの最新版に準拠した教職員研修を受講し、完了させること (0201-02-0200)

リーダーシップ 3：学校は、幅広くバランスがとれ、関連性の高いカリキュラムを提供し、地域社会の変化するニーズに対応する学習と指導の時間を編成すること(0201-03)

リーダーシップ 3.1：学校は、プログラムの要件を満たすことのできるスケジュールにて運営を行うこと (0201-03-0100)

PYP1：学校は、必要な数の教科の枠をこえた探究の単元の開発を可能にするスケジュールを使用すること (0201-03-0111)

MYP1：学校は、各教科に必要な最低授業時間数を盛り込んだスケジュールを導入すること (0201-03-0121)

MYP2：学校は、プログラム資料で指定されたカリキュラム要件を導入し確認すること (0201-03-0122)

DP1：学校は、合理的な科目の選択を生徒に提供するバランスのとれたカリキュラムを導入し確認すること (0201-03-0131)

DP2：学校は、DP 科目の標準レベル (SL : standard level) と上級レベル (HL : higher level)、および「知の理論」(TOK : theory of knowledge) に必要な最低授業時間数を盛り込んだスケジュールを導入すること (0201-03-0132)

DP3：学校は、すべての生徒が2年間にわたって TOK に取り組めるスケジュールを導入すること (0201-03-0133)

DP4：学校は、すべての生徒が最低 18 カ月間にわたって「創造性・行動・奉仕」(CAS：creativity, activity, service) の体験とプロジェクトに取り組めるスケジュールを導入すること (0201-03-0134)

CP1：学校は、DP 科目の SL と HL、および CP のコアに必要な最低授業時間数を盛り込んだスケジュールを導入すること (0201-03-0141)

CP2：学校は、すべての生徒が2年間にわたって「パーソナルスキルと職業的スキル」(PPS：personal and professional skills) に取り組めるスケジュールを導入すること (0201-03-0142)

CP3：学校は、すべての生徒が最低 18 カ月間にわたって定期的にサービラーニングの体験とプロジェクトに取り組めるスケジュールを導入すること (0201-03-0143)

リーダーシップ 4：学校は、IB プログラムの運営と持続可能性を向上させるためのシステムとプロセスを運用し、見直しを行うこと(0201-04)

リーダーシップ 4.1：学校は、プログラムの実行を確実にを行うために、カリキュラム、ポリシー、手順を文書化し、共有し、保存するためのシステムとプロセスを有すること (0201-04-0100)

リーダーシップ 4.2：学校は、プログラムの運営と持続可能性に寄与するデータを収集し、使用すること (0201-04-0200)

リーダーシップ 4.3：学校は、IB プログラムの運営品質の改善に寄与するデータを収集し、使用すること (0201-04-0300)

リーダーシップ 4.4：学校は、関連するプログラムの一般的な特徴と、学校がそれらをおのよう実施しているかについて、児童生徒および保護者へ確実に知らせるようになること (0201-04-0400)

リーダーシップ 5：学校は、IB プログラムを維持し、さらに発展させるため資金確保とリソースの分配を行うこと(0201-05)

リーダーシップ 5.1：学校は、プログラムを実践しプログラムの要件を満たすために、適切なリソースに資金を供給すること (0201-05-0100)

PYP1：学校は、専科教員と学級担任による教科の枠をこえた学習の協働設計をサポートするのに適切なリソースを分配すること (0201-05-0111)

MYP1：学校は、教科のカリキュラム開発、ATL の計画策定、生徒の奉仕活動への参加の支援、パーソナルプロジェクトまたはコミュニティープロジェクトの実施においてリーダーシップを示すのに適切なリソースを分配すること (0201-05-0121)

DP1：学校は、「コア」科目である CAS のために CAS コーディネーターを任命し、適切なリソースを分配し、指導者を提供すること (0201-05-0131)

DP2：学校は、コア要素の「課題論文」(EE：extended essay) のコーディネーターを指定するほか、EEをサポートするのに適切なリソースを分配し、指導者を提供すること(0201-05-0132)

CP1：学校は、サービスマーケティングのコーディネーターを指定するほか、サービスマーケティングをサポートするのに適切なリソースを分配し、指導者を提供すること(0201-05-0141)

CP2：学校は、コア要素の振り返りプロジェクトのコーディネーターを生徒それぞれに対して指定するほか、振り返りプロジェクトをサポートするのに適切なリソースを配分すること(0201-05-0142)

CP3：学校は、コア要素の言語の発達を実施するのに適切なリソースを分配し、指導者を提供すること(0201-05-0143)

CP4：学校は、コア要素の「パーソナルスキルと職業的スキル」(PPS)を実施するのに適切なリソースを分配すること(0201-05-0144)

基準：児童生徒のサポート(0202)

IB ワールドスクールの学習環境は、児童生徒の成功をサポートするものであること

実践要綱

児童生徒のサポート 1：学校は、IB プログラムの実施に関わる人材、自然資源、設備、および仮想的なリソースを提供すること(0202-01)

児童生徒のサポート 1.1：学校は、プログラム資料に従い、適切なリソースおよび設備を提供すること(0202-01-0100)

児童生徒のサポート 1.2：学校は、教師が任命された役割における地域的および法的要件を満たしていることに対する責任をもつ(0202-01-0200)

児童生徒のサポート 1.3：学校は、効率的な学習スペースと学習環境を提供すること(0202-01-0300)

児童生徒のサポート 1.4：学校は、地域、国、国際的、およびグローバルな文脈での取り組みをサポートする最新リソースへのアクセスを確保し、IB コミュニティーとの効果的なコミュニケーションを促進するテクノロジーを提供すること(0202-01-0400)

児童生徒のサポート 1.5：学校は、協働を可能とする柔軟な学習スペースの使用およびデザイン（またはそのいずれか）に活かすためにプログラム資料を使用すること(0202-01-0500)

MYP1：(該当する場合) 学校は、試験資材の管理、受験上の配慮の提供に関し、IB の評価要件を遵守すること(0202-01-0521)

DP1：学校は、試験資材の管理、受験上の配慮の提供に関し、IB の評価要件を遵守すること(0202-01-0531)

CP1：学校は、試験資材の管理、受験上の配慮の提供に関し、IB の評価要件を遵守すること(0202-01-0541)

児童生徒のサポート 1.6：学校は、学習と指導をサポートし拡充するのに必要な人、場所、コレクション（蔵書や電子資料等を含めた利用可能な資料全体）、サービスの適切な組み合わせから成る機能的かつ活動的な図書館を維持すること(0202-01-0600)

児童生徒のサポート 2：学校は、適切な学習サポートを特定し提供すること(0202-02)

児童生徒のサポート 2.1：学校は、児童生徒のニーズを特定するため、システムとプロセスを運用し見直しを行うこと(0202-02-0100)

児童生徒のサポート 2.2：学校は、特定された児童生徒のニーズをサポートし、方針の計画と実践を通じてこのサポートを実証すること(0202-02-0200)

児童生徒のサポート 2.3：学校は、多様性を受け入れるインクルーシブな方針に沿ってスタッフ、設備、およびリソースを提供すること(0202-02-0300)

児童生徒のサポート 2.4：学校は、すべての児童生徒のニーズを満たすようなやり方で学習スペースと学習環境を最も効果的に使用することに献身的に取り組むこと(0202-02-0400)

児童生徒のサポート 3：学校は、児童生徒と教師の社会的および心身の健全性を促進すること感情的、肉体的な幸福を促進すること(0202-03)

児童生徒のサポート 3.1：学校は、児童生徒と教師の社会的および心身の健全性をサポートするため、スペースとリソースを特定し割り当てを行うこと(0202-03-0100)

児童生徒のサポート 3.2：学校は、そのシステム、プロセス、およびポリシーにおいて、児童生徒と教師の社会的および心身の健全性に対する配慮を示すこと(0202-03-0200)

児童生徒のサポート 3.3：教育的リーダーシップチームと教師は、児童生徒の社会的および心身の健全性をサポートすること(0202-03-0300)

児童生徒のサポート 3.4：学校は、理解と尊重に基づいた開かれたコミュニケーションを推進すること(0202-03-0400)

児童生徒のサポート 4：学校は、児童生徒が IB プログラムで成功し、教育的およびキャリア関連の経験（またはそのいずれか）の次の段階について計画する手助けとなるガイダンスとサポートを提供すること(0202-04)

児童生徒のサポート 4.1：学校は、児童生徒が学習をさらに進めるにつれ、プログラム上の選択肢、キャリア、およびさらなる教育の機会（またはそのいずれか）について、アドバイスとガイダンスを提供するシステムとプロセスを運用し、見直しを行うこと(0202-04-0100)

児童生徒のサポート 5：学校は、IB プログラムの実施を強化する知恵と専門知識の源泉である、より広いコミュニティとの関係を構築すること(0202-05)

児童生徒のサポート 5.1：学校は、児童生徒の学習を支援し拡充するより広いコミュニティにおいて、さまざまな人材、物的資源、および仮想的なリソースを特定して使用すること(0202-05-0100)

児童生徒のサポート 5.2：学校は、保護者が自校のプログラムの開発と支援に貢献する有意義な機会を提供すること (0202-05-0200)

基準：教師のサポート(0203)

IB ワールドスクールの学習環境は、教師をサポートし力づけるものであること

実践要綱

教師のサポート 1：学校は、教師が最新の IB リソースを使用し、IB プログラムの実践について定期的に見直しを行うのを確認すること(0203-01)

教師のサポート 1.1：学校は、教師全員が最新かつ関連する IB コンテンツに確実にアクセスできるようにすること (0203-01-0100)

教師のサポート 1.2：学校は、教師が最新かつ適切なプログラム資料を使用して教室での指導を行っていることを示すこと (0203-01-0200)

MYP1：学校は、カリキュラムの最新のねらい、目標、実施要件を反映した学習と指導が行われていることを確認すること (0203-01-0221)

DP1：学校は、カリキュラムの最新のねらい、目標、実施要件を反映した学習と指導が行われていることを確認すること (0203-01-0231)

CP1：学校は、カリキュラムの最新のねらい、目標、実施要件を反映した学習と指導が行われていることを確認すること (0203-01-0241)

教師のサポート 2：学校は、学校リーダーシップと教師が適切かつ時宜を得た研修に参加し、実践についての情報を得ていることを確認すること(0203-02)

教師のサポート 2.1：学校は、IB の文書に示されている通り、IB が求める教員研修の要件を遵守すること (0203-02-0100)

教師のサポート 3：学校は、IB プログラムの実践において、教師が効果的に協働するための時間とその他のリソースを提供すること(0203-03)

教師のサポート 3.1：学校は、教師の協働設計および振り返りのためにそれ専用の予定された、および予定表に組み込まれた（またはそのいずれかの）時間を割り当てること (0203-03-0100)

MYP1：学校は、教師が協働するのに適切な時間を割り当て、教師がその時間を有効活用してプログラム資料に従って MYP を計画し実施していることを確認すること (0203-03-0121)

CP1：学校は、CP の枠組みの要素を統合する計画を策定するのに適切な時間とリソースを割り当てること (0203-03-0141)

文化：肯定的な学校文化の創造

学校文化とは、学校がどのように機能するかについての文書化された、または文書化されていない規則を指します。さらに、個人的および集団的幸福、物的資源および人材の効果的な活用、および学校が多様性を肯定し称賛する度合いも含めます。

規準：方針の実践を通じた文化(0301)

学校は、IB の理念を達成することができる学校文化の創造に役立つ効果的な方針を開発、実施、伝達し、見直しを行うこと

実践要綱

文化 1：学校は、可能な限り多様な児童生徒が IB の教育にアクセスできるようにすること(0301-01)

文化 1.1：学校は、IB プログラムへのアクセスおよび自校のプログラムへの参加条件を明確に説明する入学方針（またはそのいずれか）を整備し、見直しを行うこと (0301-01-0100)

文化 1.2：学校は、妥当な範囲でできるだけ多くの児童生徒に自校のプログラムへのアクセスを奨励するため、関連する資料やリソース、仕組みを提供すること (0301-01-0200)

文化 1.3：学校は、可能な限り多様な児童生徒がプログラムにアクセスする機会を提供すること (0301-01-0300)

PYP1：学校は、学習者の多様性にかかわらず、すべての児童を対象とすることを明示すること。例外として、規制によりプログラムを履修できない児童がいる場合は、国や州・地域の該当するカリキュラムをその児童に提供すること。(0301-01-0311)

PYP2：学校は、学校が提供している幼児期教育および初等教育（またはそのいずれか）全体を通じて PYP を実施すること (0301-01-0312)

MYP1：学校は、MYP に取り組む機会を生徒に平等に提供するための努力をモニタリングし評価すること (0301-01-0321)

DP1：学校は、DP を完全に提供し、フルディプロマの取得を試みる生徒が必ずいるようにすること。フルディプロマに取り組む機会を生徒に平等に提供するための努力をモニタリングし評価すること (0301-01-0331)

DP2：学校は、IB ディプロマの完全な取得を目指すよう生徒に奨励する戦略を実践し、見直しを行うこと (0301-01-0332)

CP1：学校は、CPに取り組む機会を生徒に平等に提供するための努力をモニタリングし評価すること、またCPへの登録を生徒に奨励するストラテジーを実践し、見直しを行うこと(0301-01-0341)

文化2：学校は、すべての児童生徒が最大の可能性を発揮することをサポートする文化を創造するような多様性を受け入れるインクルーシブな方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと(0301-02)

文化2.1：学校は、IBのガイドラインに沿った多様性を受け入れるインクルーシブな方針を実践し、見直しを行うこと(0301-02-0100)

文化2.2：学校は、多様性を受け入れるインクルーシブな方針の中ですべての法的要件を特定し、遵守のための学校の構造とプロセスの概要を示すこと(0301-02-0200)

文化2.3：学校は、多様性を受け入れるインクルーシブな方針の中で学校コミュニティのすべてのメンバーの権利と責任について説明し、多様性を認めるプログラムを実施するための学校の構想について明確に述べること(0301-02-0300)

文化3：学校は、倫理的な学問の実践という文化を創造する学問的誠実性についての方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと(0301-03)

文化3.1：学校は、学校の理念を明確化し、IBのガイドラインに沿った学問的誠実性についての方針を実施し、見直しを行うこと(0301-03-0100)

文化3.2：学校は、学問的誠実性についての方針において、学校コミュニティのすべてのメンバーの権利と責任、優れた実践と不正行為の具体的内容、違反行為があった場合の対応について明確に述べること(0301-03-0200)

文化3.3：学校は、学問的誠実性に関するさまざまな事例を指導するための責任を明確化し、5つの原則である誠実さ、信頼、公平性、敬意、および責任を反映すること(0301-03-0300)

文化3.4：学校は、学問的誠実性についての方針に関連するサポート資料、リソース、および仕組みが確実に使用されるようにすること(0301-03-0400)

文化3.5：学校は、カリキュラム全体を通して学習と指導についての情報定期的に入手し、学校の手続きが透明、公正、かつ一貫していることを確実にするため、学問的誠実性方針の影響をモニタリングし評価すること(0301-03-0500)

文化4：学校は、複数の言語でさまざまな方法のコミュニケーションを行うことで、多様な文化の理解を育成するのに役立つ言語方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと(0301-04)

文化4.1：学校は、IBの言語方針のガイドラインに沿った言語方針を実施し見直しを行うこと(0301-04-0100)

文化4.2：学校は、学校が多言語主義をどのように事実、権利、そして学習源であると認識しているかを言語方針の中に記載すること(0301-04-0200)

文化4.3：学校は、言語の発展を促進するために用いるさまざまな物的資源および仮想的なリソースを言語方針の中で特定すること(0301-04-0300)

文化 4.4：学校は、学校コミュニティのメンバー全員の権利と責任、および学校という文脈の中で良い実践のためには何が必要かを言語方針の中で明確に記載すること(0301-04-0400)

PYP1：学校は、少なくとも7歳から児童が指導言語のほかにもう1言語を学べるようにすること。児童が2言語以上で学習する多言語プログラムの場合は、指導言語以外の追加言語を提供してもよいが、必須ではない。(0301-04-0411)

文化 5：学校は、継続学習と成長という学校文化の創造に役立てるため、評価方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと(0301-05)

文化 5.1：学校は、学習および評価に関する IB の理念に沿った、自校の理念を明確にする評価方針を実施し、見直しを行うこと(0301-05-0100)

文化 5.2：学校は、地域および IB で必要なすべての要件を評価方針の中で特定し、これらの要件を自校がどのように満たすのかの概要を述べること(0301-05-0200)

文化 5.3：学校は、学校コミュニティのすべてのメンバーの権利と責任を評価方針の中で説明し、優れた評価の実践には何が必要かを明確に述べること(0301-05-0300)

文化 5.4：学校は、公平かつ妥当な評価のために、適切な補助教材、リソース、およびプロセスが使用されることを確認すること(0301-05-0400)

文化 5.5：学校は、継続的な学習と成長にとっての評価の価値について、評価方針の中で説明すること(0301-05-0500)

文化 6：学校は、IB が定めた方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行い、それらが一貫性をもち、IB の理念を反映したものを確認すること(0301-06)

文化 6.1：学校は、IB が定めた方針との関係性を考慮しながら、各プロセスを実施すること(0301-06-0100)

文化 6.2：学校は、IB が定めた方針を文書化し、それらを学校コミュニティに伝達すること(0301-06-0200)

文化 6.3：学校は、IB が定めたすべての方針に基づいて、物理的および仮想的な空間を考慮すること(0301-06-0300)

文化 6.4：学校は、IB が定めたすべての方針に基づいて、人材、自然資源、設備、および仮想的なリソースの計画された統合を明確に示すこと(0301-06-0400)

文化 6.5：学校は、IB が定めた方針のすべてについて「IB の学習者像」を考慮すること(0301-06-0500)

文化 6.6：学校は、IB が定めた方針のすべてについて国際的な視野を考慮すること(0301-06-0600)

文化 6.7：教育的リーダーシップチームは、カリキュラムの開発と意思決定を IB が定めた学校の方針に基づいて行うこと(0301-06-0700)

学習：効果的な教育の保証

IB コミュニティーにおける学習は、意味を構築し世界を理解するために人々がさまざまな方法で協働することを重要なものとして捉えています。この構成主義的なアプローチは、質問し、行動し、考えることを通じて、教室を開かれた民主的なものへと導きます。IB の児童生徒と教師は、個人として、また他者との協働における生涯学習者を目指します。IB スクールの学習コミュニティは、より深い理解と生涯学習へとつながる、周期的な探究・行動・振り返りを行います。IB ワールドスクールにおいて、学習は中心的信条であると同時に、目的・文化・環境の開発の成果でもあります。

基準：一貫したカリキュラムのデザイン(0401)

IB スクールにおける学習は、一貫したカリキュラムに基づいて行われること

実践要綱

一貫したカリキュラム 1：学校は、IB プログラムが実施される期間にわたり、学習と指導を体系化する一貫したカリキュラムを計画し、実施すること (0401-01)

一貫したカリキュラム 1.1：学校は、プログラム資料に従いカリキュラムをデザインすること (0401-01-0100)

一貫したカリキュラム 1.2：学校は、カリキュラムを教科横断的かつ学年縦断的に統合すること (0401-01-0200)

一貫したカリキュラム 1.3：学校は、該当するすべての IB カリキュラムの枠組みが、学校、地域、都道府県、および国の教育当局の要件と完全に統合されていることを示すこと (0401-01-0300)

一貫したカリキュラム 1.4：学校は、IB の理念をカリキュラムに組み込むための協働設計の時間を教師に与えること (0401-01-0400)

一貫したカリキュラム 1.5：学校は、児童生徒が学習を教科横断的に結びつけられるようにスケジュールとカリキュラムを明確化すること (0401-01-0500)

PYP1：学校は、各年次または学年ごとに 6 つの探究の単元（教科の枠をこえたテーマごとに 1 つずつ）からなる探究プログラム（POI：programme of inquiry）をデザインすること。例外は 3～6 歳児で、児童は各年次または学年ごとに少なくとも 4 単元を学ぶ必要があり、そのうち 2 つは「私たちは誰なのか」、「私たちはどのように自分を表現するか」でなければならない (0401-01-0511)

PYP2：学校はカリキュラム全体における設計、指導、および学習の枠組みとして PYP に取り組むこと (0401-01-0512)

PYP3：学校は、各年次または各学年の探究プログラムの中にすべての教科が存在するようにすること(0401-01-0513)

MYP1：学校は、教科の概要と ATL の計画チャートをプログラム資料に従って開発すること(0401-01-0521)

一貫したカリキュラム 1.6：学校は、児童生徒がすでにもっている知識、アイデンティティ、バックグラウンド、ニーズ、および文脈に対する認識に従ってカリキュラムが変化するものであることを示すこと(0401-01-0600)

一貫したカリキュラム 2：教師は、協働して学校の IB プログラムをデザイン、計画、実施すること(0401-02)

一貫したカリキュラム 2.1：教師は、プログラムの要件を満たし、プログラム資料に沿った単元を協働で計画しデザインすること(0401-02-0100)

PYP1：教師は、プログラムを協働でデザイン、計画、および実施するにあたり、PYP プランナーのテンプレートを使用するか、PYP 計画プロセスの使用方法を記録すること(0401-02-0111)

PYP2：学校は、探究プログラムが学級担任と専科教員との協働でデザイン、計画、および運営され、各単元に含まれる教科の指導が実施されていることを確認すること。これにより教科の枠をこえた学習への取り組みを示すこと(0401-02-0112)

MYP1：学校は、協働設計と振り返りを使用して学際的な理解を発展させるための機会を教師に提供すること(0401-02-0121)

MYP2：教師は、MYP 計画プロセスを使用して、生徒の探究を協働でデザイン、計画、実施し、記録すること(0401-02-0122)

DP1：学校は、協働設計と振り返りを使用して各科目に TOK を統合するための機会を教師に提供すること(0401-02-0131)

CP1：学校は、キャリア関連教育(CRS: career-related studies)のスタッフと協働して生徒の教育経験全体にバランスと結びつきをもたせるための機会を IB の教師に提供すること(0401-02-0141)

一貫したカリキュラム 2.2：教師は、異なる分野間のつながりと関係性に配慮し、共通の概念、内容、およびスキルを強化するため、協働で計画し振り返りを行うこと(0401-02-0200)

一貫したカリキュラム 2.3：教師は、人材、物的資源、および仮想的なリソースを、協働を促進し拡大するために用いること(0401-02-0300)

一貫したカリキュラム 2.4：教師は、IB 教育の要素に取り組むために協働設計と振り返りを用いること(0401-02-0400)

一貫したカリキュラム 3：学校は、学校コミュニティを明確に参加させるような方法でカリキュラムを開発し、定期的に見直し、共有すること(0401-03)

一貫したカリキュラム 3.1：学校は、進行中のプログラム開発状況を学校コミュニティに伝え、それをカリキュラムの開発に組み込むこと(0401-03-0100)

一貫したカリキュラム 3.2：学校は、プログラム開発をサポートする関連のコミュニティに教師と教育的リーダーシップチームの全員が確実にアクセスできるようにすること(0401-03-0200)

一貫したカリキュラム 3.3：学校は、学習、指導、および評価についての IB の要件を見直し、それらを学校コミュニティに伝達すること(0401-03-0300)

一貫したカリキュラム 3.4：学校は、IB の要件とそれをサポートするコンテンツを定期的に見直すこと(0401-03-0400)

一貫したカリキュラム 3.5：学校は、最新のカリキュラムが学校コミュニティに明確に伝達されているかを確認すること(0401-03-0500)

MYP1：教師は、MYP の検証サイクルとそれに関連する IB からの伝達に従うこと(0401-03-0521)

DP1：教師は、DP の検証サイクルとそれに関連する IB からの伝達に従うこと(0401-03-0531)

CP1：教師は、DP の検証サイクルとそれに関連する IB からの伝達に従うこと(0401-03-0541)

基準：生涯学習者としての児童生徒(0402)

IB スクールでは、プログラム修了後の教育と、教室外での生活に対する準備を整えることを学習のねらいとすること

実践要綱

生涯学習者としての児童生徒 1：児童生徒は、活発に思考、研究、コミュニケーション、社会的、および自己管理のスキルを発達させること(0402-01)

生涯学習者としての児童生徒 1.1：学校は、IB の ATL を実践し、その発展の見直しを行うこと(0402-01-0100)

生涯学習者としての児童生徒 1.2：学校は、児童生徒が自ら活発に学習に取り組むことのできるプロセスを実施し、見直しを行うこと(0402-01-0200)

生涯学習者としての児童生徒 2：児童生徒は、「IB の学習者像」の人物像に沿った継続的な発展を実証し、振り返りを行うこと(0402-02)

生涯学習者としての児童生徒 2.1：児童生徒は、「IB の学習者像」を理解し、効果的に振り返りを行うことができるようにすること(0402-02-0100)

生涯学習者としての児童生徒 2.2：教師は、「IB の学習者像」の人物像に沿った発展とその実証について振り返りを行う機会を児童生徒に提供すること(0402-02-0200)

生涯学習者としての児童生徒 2.3：児童生徒は、「IB の学習者像」と国際的な視野の関係性を理解していること (0402-02-0300)

生涯学習者としての児童生徒 3：児童生徒は、健全な人間関係、責任の共有に対する理解、および効果的に協働する能力を認識し、発展させること(0402-03)

生涯学習者としての児童生徒 3.1：児童生徒と教師は、児童生徒同士が協働する機会を含めるように意図された学習経験に取り組むこと (0402-03-0100)

生涯学習者としての児童生徒 3.2：学校は、協働と効果的な人間関係の構築がカリキュラムの中に明確に取り上げられていることを示すこと (0402-03-0200)

生涯学習者としての児童生徒 3.3：教育的リーダーは、学校で児童生徒の意見が代弁される機会を提供すること (0402-03-0300)

生涯学習者としての児童生徒 4：児童生徒は、情報、論理、および倫理に基づいて判断を行う能力を向上させること(0402-04)

生涯学習者としての児童生徒 4.1：児童生徒と教師は、IB の学問的誠実性のガイドラインを遵守すること (0402-04-0100)

生涯学習者としての児童生徒 4.2：児童生徒と教師は、成果物を作成する際に他者の知的財産を明示すること (0402-04-0200)

生涯学習者としての児童生徒 4.3：学校は、引用や参考文献についての指導も含め、児童生徒が他者の作品を明示することへのサポートと指導を提供すること (0402-04-0300)

生涯学習者としての児童生徒 4.4：教師は、自身による独自の作品を創り出すことの意義と重要性について児童生徒たちと話し合うこと (0402-04-0400)

生涯学習者としての児童生徒 5：児童生徒は、より広いコミュニティと社会全般に肯定的な変化をもたらすのに必要な柔軟性、忍耐力、および自信を育むこと(0402-05)

生涯学習者としての児童生徒 5.1：学校は、学習したことを直接行動に応用する機会を児童生徒に提供すること (0402-05-0100)

生涯学習者としての児童生徒 5.2：児童生徒は、プログラム資料に従い、学習全体を通してコミュニティと共に、コミュニティに対して積極的な貢献を行うことを示すこと (0402-05-0200)

MYP1：生徒は、MYP の各年次の奉仕活動で、学習成果を発展させ、それに基づいて行動し、また振り返る機会を利用すること (0402-05-0221)

生涯学習者としての児童生徒 6：児童生徒は、チャレンジに満ちた目標を設定し、独自の探究を突き詰めることで、自身の学習に責任をもって取り組むこと(0402-06)

生涯学習者としての児童生徒 6.1：児童生徒は、自分自身で学習目標を設定する機会を利用すること (0402-06-0100)

生涯学習者としての児童生徒 6.2：児童生徒は、質問する機会や独自に探究し行動する機会を利用すること(0402-06-0200)

PYP1：児童は、PYP の最終年次に「エキシビション」に参加すること。ただし幼児期のプログラムのみを提供する学校は例外とする(0402-06-0211)

MYP1：学校は、パーソナルプロジェクトとコミュニティープロジェクトを通じて自主的に学習する機会を生徒に提供すること(0402-06-0221)

DP1：学校は、DP のコアを通じて自主的に学習する機会を生徒に提供すること(0402-06-0231)

CP1：学校は、CP のコアを通じて自主的に学習する機会を生徒に提供すること(0402-06-0241)

生涯学習者としての児童生徒 7：児童生徒は、独自かつ文化的なアイデンティティーを探究し、発展させる機会を追求すること(0402-07)

生涯学習者としての児童生徒 7.1：学校は、児童生徒が独自かつ文化的なアイデンティティーを探究し、発展させる機会を提供すること(0402-07-0100)

生涯学習者としての児童生徒 7.2：学校コミュニティーは、学習と指導を通じて個々の児童および生徒のアイデンティティーを肯定すること(0402-07-0200)

生涯学習者としての児童生徒 7.3：児童生徒は、自らの使用可能な言語とそのレベルを発達させる機会を利用すること(0402-07-0300)

基準：指導のアプローチ(0403)

IB プログラムは、学校コミュニティーにとって有意義な学習経験を創造する指導のアプローチの使用を奨励すること

実践要綱

指導のアプローチ 1：教師は、児童生徒に自然な好奇心を発達させるために、探究・行動・振り返りを用いること(0403-01)

指導のアプローチ 1.1：教師は、探究型の指導戦略を用い、学習への積極的な参加を促すこと(0403-01-0100)

指導のアプローチ 1.2：学校は、探究型の指導戦略と学習への積極的な参加の促進についてモニタリングし評価すること(0403-01-0200)

指導のアプローチ 1.3：学校は、児童生徒にインタラクティブ（双方向的）かつ探索的な学習環境に主体的に取り組む機会、およびプログラム資料に従って役割を果たす機会（またはそのいずれか）を提供すること(0403-01-0300)

指導のアプローチ 1.4：教師は、カリキュラムの中の適切な場面において、児童生徒自らの選択を奨励すること(0403-01-0400)

指導のアプローチ 1.5：教師は、児童生徒が独自の興味およびアイデアを探究することを助けること(0403-01-0500)

指導のアプローチ 2：教師は、児童生徒が自身の考えを発達させるのを支援するために概念学習に重点を置くこと(0403-02)

指導のアプローチ 2.1：教師は、概念的理解に重点を置いた戦略的な指導を行うこと(0403-02-0100)

指導のアプローチ 2.2：教師は、児童生徒が自身の概念的理解を発達させることができるような学習経験を計画し手助けすること(0403-02-0200)

指導のアプローチ 2.3：児童生徒は、カリキュラムの中の適切な場面において、自身の概念的理解を探究し発展させる機会を利用すること(0403-02-0300)

指導のアプローチ 3：教師は、カリキュラムの関連性を確立するため、地域およびグローバルな文脈を用いること(0403-03)

指導のアプローチ 3.1：教師は、カリキュラムの中に地域およびグローバルな文脈と明確な関連性をもつ事例があることを確認すること(0403-03-0100)

指導のアプローチ 3.2：教師は、児童生徒が自身の概念的理解を馴染みのない文脈に応用するように奨励すること(0403-03-0200)

指導のアプローチ 4：教師は、肯定感があり、躍動感のある学習環境を創造するために、効果的な人間関係の構築と意義のある協働を促進すること(0403-04)

指導のアプローチ 4.1：教師は、児童生徒にとっての学習体験がプログラム資料に合致し、ホリスティック（全人的）で首尾一貫したものであることを協働して確認すること(0403-04-0100)

指導のアプローチ 4.2：児童生徒は、教師や同級生と協働して自身の学習を計画・実証・評価すること(0403-04-0200)

指導のアプローチ 4.3：学校は、児童生徒が各自の強みや能力を活かして協働する機会を提供すること(0403-04-0300)

PYP1：教師は、柔軟なグループ分けを行い、学習を最適化し、児童の幸福を確保し、さまざまな協働の機会を提供すること(0403-04-0311)

指導のアプローチ 5：教師は、児童および生徒一人ひとりがやりがいのある独自の学習目標をたて、それを追求し達成できるように学習への障壁を取り除くこと(0403-05)

指導のアプローチ 5.1：教師は、児童および生徒個別の学習目標を計画する際、学習者としての多様性を考慮すること(0403-05-0100)

指導のアプローチ（ATL） 5.2：教師は、すべての児童生徒の学習を支援し拡張するため、児童生徒がすでにもっている知識をカリキュラムに組み込むこと(0403-05-0200)

指導のアプローチ 5.3：教師は、児童生徒をサポートするために IB が義務づけている方針を採用すること(0403-05-0300)

指導のアプローチ 5.4：教師は、児童生徒の使用可能な言語とそのレベルを考慮しながら、言語の発達を支援すること(0403-05-0400)

指導のアプローチ 5.5：教師は、学習と指導を支援し拡張するためにさまざまなテクノロジーを使用すること (0403-05-0500)

基準：評価のアプローチ(0404)

学習、指導、および評価は、互いに効果的な情報を与え、影響し合うものであること

実践要綱

評価のアプローチ 1：児童生徒と教師は、学習、指導、および評価を向上させるためにフィードバックを行うこと(0404-01)

評価のアプローチ 1.1：児童生徒と教師は、IB の理念と評価資料に従い、規定された結果と期待の達成をサポートするためにフィードバックを行うこと (0404-01-0100)

評価のアプローチ 1.2：学校は、学習、指導、および評価を改善するうえで役に立つ情報を児童生徒と教師に提供するために、その学校に基づいた具体的で建設的な報告を行うこと (0404-01-0200)

評価のアプローチ 2：学校は、カリキュラムおよび規定された学習結果と目標に見合うさまざまな評価のアプローチを用いること(0404-02)

評価のアプローチ 2.1：教師は、規定された学習目標と結果に関連するさまざまな評価のアプローチを用いること (0404-02-0100)

PYP1：教師は、データに基づいて学習経験をデザインするため、児童の学習の経時変化を記録・分析すること (0404-02-0111)

MYP1：教師は、プログラム資料に従い、規準と手順に基づく生徒の評価を計画しデザインすること (0404-02-0121)

MYP2：学校は、プログラム資料に従い、規準レベルの合計点を記録し、MYP のパーソナルプロジェクトを IB のモデレーションに提出すること (0404-02-0122)

DP1：学校は、各科目および DP のコア要素に関して、目標と評価ツールを使用して、生徒の学習の総括的評価を構築すること (0404-02-0131)

DP2：学校は、プログラム資料に従い、DP のコア要素に関して、IB により認証された評価を記録し提出すること (0404-02-0132)

CP1：学校は、DP の各科目および CP のコア要素に対し、目標と評価ツールを使用して、生徒の学習の総括的評価を構築すること (0404-02-0141)

評価のアプローチ 2.2：学校は、評価の実践が概念学習を中心に組み立てられていることを示すこと (0404-02-0200)

評価のアプローチ 2.3：学校は、児童生徒と保護者が評価に関するプログラムの規定や要件について記載した資料の存在を入学の時点から認識し、それらに確実にアクセスできるようにすること (0404-02-0300)

評価のアプローチ 3：学校は、公正でインクルーシブに、かつ一貫性と透明性をもって評価を実施すること(0404-03)

評価のアプローチ 3.1：学校は、IB の規則、規定、および関連するプログラム資料（またはそのいずれか）に従い評価を管理すること(0404-03-0100)

MYP1：教師は、IB のガイドラインに従い、生徒の成果物の評価を標準化し、評価結果の信頼性を確認すること(0404-03-0121)

DP1：教師は、IB のガイドラインに従って生徒の成果物の評価を標準化し、評価結果の信頼性を確認すること(0404-03-0131)

CP1：教師は、IB のガイドラインに従って生徒の成果物の評価を標準化し、評価結果の信頼性を確認すること(0404-03-0141)

評価のアプローチ 3.2：学校は、すべての受験上の配慮を定期的に見直し確実に遵守すること(0404-03-0200)

評価のアプローチ 3.3：学校は、外部への報告と予測の提出（またはそのいずれか）が可能な限り正確になされ、求められている文脈において適切にデザインされたものであることを確認すること(0404-03-0300)

MYP1：（該当する場合）学校は、画面上の試験が行われる MYP の科目について、予測スコアを正確かつ誠実に IB に伝達すること(0404-03-0321)

DP1：学校は、学問的誠実性を重視し、可能な限りの正確さで振り返りを行って算出した、予想スコアを機関（高等教育機関など）に伝え、また予測スコアを IB に伝えること(0404-03-0331)

CP1：学校は、学問的誠実性を重視し、と可能な限りの正確さで振り返りを行って算出した予想スコアを機関（高等教育機関など）に伝え、また予測スコアを IB に伝えること(0404-03-0341)

評価のアプローチ 3.4：学校は、児童生徒の成長についての報告、および不服申し立てや異議に対応する際に、一貫性をもった公正なシステムとプロセスを使用、伝達し、定期的に見直しを行うこと(0404-03-0400)

評価のアプローチ 3.5：学校は、評価の送付プロセスに欠陥がなく妥当なものであることを確実にするため、モニタリングし審査すること(0404-03-0500)

評価のアプローチ 4：児童生徒は、学習したことを定着させる機会として評価を利用すること(0404-04)

評価のアプローチ 4.1：学校は、さまざまな評価を通じて、児童生徒に自分たちの学習したことを定着させる機会を提供すること(0404-04-0100)

MYP1：MYP の 5 年次の生徒すべてがパーソナルプロジェクトを完了し、3 年次または 4 年次でプログラムを修了する生徒すべてがコミュニティープロジェクトを完了すること(0404-04-0121)

DP1：学校は、DP が修了に近づく時期に生徒が EE を提出し、生徒が自分で選んだトピックに取り組める機会を提供すること (0404-04-0131)

CP1：学校は、プログラム資料に従い、CP のコア要素に関して IB により認証された必須の評価、および完了のエビデンスを記録し提出すること (0404-04-0141)

注釈

初等教育プログラム（PYP）

追加言語の学習

PYP は、追加言語の学習に必要な時間数を規定していますか。

仕様

PYP1：学校は、(少なくとも7歳から) 児童が指導言語のほかにもう1言語を学べるようにすること。児童が2言語以上で学習する多言語プログラムの場合、指導言語以外の追加言語を提供してもよいが、必須ではない(0301-04-0411)

注釈

IB は、言語の発達のプログラムを成功させるために必要な時間数を意図的に指定していません。学校の言語的背景に基づいて、学校が時間数を決定できます。

PYP の学校は、追加言語のプログラムを見直しまたは導入する際、学校の言語的背景とより広いコミュニティの文脈を考慮に入れることで、どの言語を児童生徒に提供すべきかを決定します。追加言語の学習は、学校の授業時間の一部で行うもので、放課後学習や課外活動ではありません(0301)。

追加言語のプログラムのねらいは、言語と文化の認識を通して他の人を理解することによって、多言語主義を通じて国際的な視野を支えることです。これには、言語がどのように学習されるかを理解し、適切にスケジュールを組もうとする学校のコミットメントが必要です。学校の言語的背景は複雑であり、学校によっても異なるため、IB の PYP では、追加言語の学習に必要とされる週あたり、または年あたりの時間数を指定していません。言語学習を持続させる実践方法、かつ最新の言語学習の実践方法に基づいて、学校が決定を下すことが期待されています。

詳細は、IB 資料『PYP：原則から実践へ』の「学習と指導」および「言語」のセクションをご覧ください。

計画の作成と専科教員

計画の作成に際して、専科教員には何が期待されていますか。

仕様

PYP1：教師は、プログラムを協働でデザイン、計画、および実施するにあたり、PYP プランナーのテンプレートを使用するか、PYP 計画プロセスの使用方法を記録すること(0401-02-0111)

注釈

学習者にとって一貫性のある体験を計画しデザインするために協働することが、専科教員に求められています (0401)。これは継続的な協働です。探究プログラム (POI : programme of inquiry) の範囲内の計画を作成する際は、専科教員と学級担任教師が協働し、PYP プランナーを使用するか、PYP 計画プロセスに基づいて独自に作成したプランナーを使用して、学習を記録します。POI の範囲外の学習の場合は、専科教員が PYP 計画プロセスを参考にしながら、学習コミュニティの期待に最も適した方法で計画の作成を記録します。

詳細は、IB 資料『PYP : 原則から実践へ』の「学習コミュニティ」と、「協働」のセクションにある「協働設計のプロセス」をご覧ください。教師用参考資料『PYP planner templates (PYP プランナーのテンプレート)』も有益かもしれません。

一貫したカリキュラムと幼児期

幼児期と初等教育の年齢層が混在する場合の POI は、どのようなものになりますか。

仕様

PYP1 : 学校は、各年次または学年ごとに 6 つの探究の単元 (教科の枠をこえたテーマごとに 1 つずつ) からなる探究プログラム (POI : programme of inquiry) をデザインすること。例外は 3~6 歳児で、児童は各年次または学年ごとに少なくとも 4 単元を学ぶ必要があり、そのうち 2 つは「私たちは誰なのか」、「私たちはどのように自分を表現するか」でなければならない (0401-01-0511)

注釈

児童の過半数が当該年度中に 7 歳になるクラスでは、通常、6 つの探究の単元に取り組みます。グループに通常の年齢層とは異なる児童が 1 人または 2 人いる場合は、その児童も、グループと同じ単元数に従います。

さまざまな年齢が混在するクラス (例えば 5~7 歳の混合グループ) の場合は、7 歳以上の児童が 6 つの探究の単元に取り組むことを学校が確認しなければなりません。探究の単元は 1 年間を通して柔軟に構成していくことができるため、学校はこれを達成できるよう。

図1
年齢が混在するグループが単元に取り組む際の順次的なアプローチの例



教師用参考資料『Flexible time frames for units of inquiry (Early Years) (探究の単元の柔軟な時間割 (幼児期))』および『Flexibility in the programme of inquiry (探究プログラムの柔軟性)』も有益かもしれません。

プログラム共通

IB ワールドスクールの環境に関する IB の立場

IB ワールドスクールの「環境」とは、人、空間、インフラ、プロセスの組み合わせであり、これらは個別の要素として開発されるのではなく、むしろ体系的に取り扱われます。IB 資料『プログラムの基準と実践要綱』では、2 種類の環境に言及しており、それが「学校環境」と「学習環境」です。

学校環境は、学習を間接的に支えます。学校環境には、学校の物理的およびバーチャルな設備、人的および財務的なリソース、組織的な構造と業務体制が含まれます。

学習環境は、学習を直接的に支えます。学習環境には、健やかで知的な発達を育む安全な空間、思慮深い学習サポート、そこで起こる学びを支えるような学校環境が含まれるべきです。

学校環境と学習環境は、学校の置かれた文脈によって非常に異なって見える可能性がありますが、いずれの場合も常に、学習を最大化するという目標を第一のねらいとして思慮深く設計され管理されたものであるべきです。

学校環境と学習環境は、慎重に方針を開発し、リソースと空間を管理し、学校のリーダーと教師と学習者の協働から進化する確固たる学校の理念の結果としてつくられます。

実践において環境の設計にどのようにアプローチできるか

条件：0101-02

学校の教育的リーダーシップチームは、児童生徒が能動的で思いやりのある、生涯にわたり学び続ける学習者になることを奨励する教育的アプローチを採用すること

「誰が (Who)」：0202-01、0203-03

学校は、IB プログラムの実施に関わる人材、自然資源、設備、および仮想的なリソースを提供すること。学校は、教師が IB プログラムの実践において、効果的に協働するための時間とその他のリソースを提供すること

「どのように (How)」：0202-02、0202-03、0301-06

学校は、適切な学習サポートを特定し提供すること。学校は、児童生徒と教師の社会的、感情的、肉体的な幸福を促進すること

学校は、IB が定めた方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行い、それらが一貫性を持ち、IB の理念を反映したものかを確認すること

「なぜ (Why)」：0402-01、0402-06

児童生徒は、思考スキル、リサーチスキル、コミュニケーションスキル、社会性スキル、自己管理スキルを能動的に向上させること。児童生徒は、チャレンジに満ちた目標を設定し、独自の探究を突き詰めることで、自身の学習に責任をもって取り組むこと

用語の解説

以下の定義は、本資料の中で使用されている用語の意味を厳密に定義することのみを意図したものである点に注意してください。以下の多くの用語は他のプログラム資料でも使用されており、適切な文脈において同じように使用されます。IBは、各学校独自の文脈の中で実践要綱がどのように具体化されているかをある程度特定し、適宜解釈しなければならないことを認識しています。一部の用語の定義は非常に一般的なものとなっており、これらについては学校がさらに洗練し明確化しなければなりません。

学校管理職 (Administration) 学校の運営責任を有する個人またはグループ。学校管理職は、教育的リーダーシップや指導責任だけでなく、統括上の特権を有する場合もあります。

管理する (Administrate) 特定の規則および規定（またはそのいずれか）に基づき分配および監督すること。評価に関する内容である場合が多いです。用語集の中の「学校管理職」も参照してください。

任命する (Appoint) 特定の目的のために正式な肩書き、責任、および場合によっては報酬を与えること。

明確化する (Articulate) 共有可能な形式で（通常は文章）定義または概要を示すこと。

伝える (Communicate) 学校およびより広いコミュニティー（またはそのいずれか）に対して積極的に発信すること。

コミュニティー (Community) 学習コミュニティー (Learning community) : 学校での学習と指導にかかわる全員を指し、児童生徒とその家族、学校のスタッフ、および児童生徒と教師にとってのその他の重要な学習源が含まれます。

学校コミュニティー (School community) : 児童生徒、保護者、教師および教師以外のスタッフ、教育的リーダーシップチーム、統括組織、および学校の運営と統括に影響をおよぼす外部機関。

より広いコミュニティー (Wider community) : 学校コミュニティーに影響を及ぼす、またはそれから影響を受ける人々と団体。直接的な関与の有無は問わない。地元企業、議会、政府機関、市民団体などが該当します。より広いコミュニティーには、仮想的な（ネットワーク上の）団体や地元以外の団体を含む場合もあります。

遵守する (Comply) 別の団体（通常はIB）により提供された、明文化された規則、ガイドライン、または法令順守に基づく資料に従うこと。

コンテンツ (Content) プログラムまたはカリキュラムの実施をサポートするために用いることができる文書以外のすべての素材。ビデオ、アプリケーション、またはその他のメディアが含まれます。

考慮する (Consider) 注意深く考え、関連するエビデンスで示すことができること。

- 文脈 (Context)** 学校コミュニティの状況、統計、および変化。学校の文脈は、学校の教育的取り組みや運営における IB 理念の現れ方に影響を及ぼします。
- 文化 (Culture)** 学校コミュニティで育成されている価値観、考え方、態度の集合体。学校コミュニティは複数のサブカルチャーを有していることもあります。例えば、IB ワールドスクールは「IB の学習者像」を具現化した「学習文化」をもつでしょう。学校文化は学校の方針、環境、および運営方法を通じてより強固なものとなるべきです。
- 実証する、明示する (Demonstrate)** エビデンスの提出、および訪問や対面でのやりとりの組み合わせを通じてエビデンスを示すこと。
- 指名する、割り当てる (Designate)** 活動またはプロジェクトに関する責任を与えるが、肩書または報酬は必ずしも含まれない。
- 発展させる、開発する、育成する (Develop)** 時間をかけて形成され改善すること。現在進行中のプロセスを示す場合が多い。
- 効果的 (Effective)** 実践、原理、または方針の証明と維持に明確かつポジティブな影響をもたらすこと。
- 体現する、具現化する (Embody)** 見解、表現、行動、および実践において定期的に証明すること。
- 採用する (Embrace)** 学校の方針、実践、および文化を広く承認、支持、および証明すること。
- 権限を付与する (Empower)** 学校コミュニティのメンバーがそれぞれの仕事を出来るようになるためのリソース、システム、プロセス、および権限を与えること。
- 奨励する (Encourage)** サポートし、変化または実施するよう訴えること。
- 確認する、保証する (Ensure)** 記載された間隔をあけて、整っていること、または施行されていることを保証すること。
- 環境 (Environment)** 人、スペース、インフラストラクチャー、およびプロセスの学校内における組み合わせ。
学校環境 (school environment) とは、学校の目的と文化をサポートしそれに寄与する人材、自然資源、設備、および仮想的なリソースを指します。
学習環境 (learning environment) とは、学習が行われる文脈と、児童生徒の学習経験を豊かにするために学校がデザインし発展させる状況を指します。学習環境には、学校の文化と目的のエビデンスが含まれます。
- エビデンス (Evidence)** 基準、実践要綱、要件、または仕様を明確化したり明示する物や文章を提供すること。または物や文章そのもの。
- 枠組み (Framework)** 実践に影響を及ぼすプロセスと要素の説明、またはプロセスや要素の間の関係性。基準と実践要綱の枠組みは、学校の発展の過程を説明・デザインするのに役立ち、認定と評価のためのエビデンスを提示する際の手がかりとなります。

- 統括 (Governance)** 学校を代表して決定を下し、統括組織の役割を果たすこと。学校を代表しての最終的な法的決定権をもつ、正式に任命された個人の集まりを含めます。
- ガイドライン (Guideline)** プロセス、行動、または開発において学校の指針となる内容であるが、必ずしも規定、規則、またはプログラム資料である必要はないものの。
- IB による規定 (IB-mandated)** IB によって定められた規定。
- IB の使命と理念 (IB mission and philosophy)** IB 資料『国際バカロレア (IB) 教育とは』で概説された IB 公式の使命と理念。
- IB の理念 (IB philosophy)** IB 教育プログラムの発展と提供を行ううえでの指針となる一連の思想と価値観。「IB の使命」、「IB の学習者像」、IB 資料『国際バカロレア (IB) の教育とは』に反映されており、各プログラムの原則および実践についての説明と概要を述べた文書の中に反映されています。
- IB により認証された評価 (IB-validated assessments)** IB により配布され、学校で管理される外部評価。
- アイデンティティー (Identity)** 人々の生き立ち、気質、および経験の組み合わせ。
個人のアイデンティティー (Personal identity) : 各個人が自身独自のものであると考える生き立ち、気質、および経験の組み合わせ。
文化的アイデンティティー (Cultural identity) : 民族性、出身地、国籍、または社会的グループに由来する各個人の生き立ち、気質、および経験の組み合わせ。
- 実施して振り返る (Implement and review)** 方針またはプロセスを行動に移し、IB または学校により定められた間隔で振り返り、その影響と価値を評価すること。
- 実施し、伝達し、および定期的に振り返る (Implement, communicate and regularly review)** 方針を行動に移し、その情報を学校コミュニティに広く発信し、関連する情報をもとに定期的に評価を行うこと。
- 革新的 (Innovative)** 学校の文脈および幅広いコミュニティにおいて、新しい、または独自であると認識されるアプローチまたはデザイン。IB は、イノベーションは新しいテクノロジーやシステムに付随して起こることが多いと認識していますが、学校は枠組みのすべての分野においてイノベーションを起こすことを奨励されています。
- リーダーシップ (Leadership)** 学校コミュニティ全体にわたって効果的な学習が確実に行われるようにするための学校の理念、目的、文化、環境、リソース、システム、および構造の構築および開発。リーダーシップチーム (Leadership team) はこの構築と開発の中の一部、またはすべての側面において責任を負います。リーダーシップには以下の3つのタイプがあります。

教育的リーダーシップ (Pedagogical leadership) は、学校のカリキュラム、方針、目的、文化、および学習の発展についての責任を負います。

学校リーダーシップ (School leadership) は、学校の環境、方針、リソース、伝達、および管理についての責任を負います。

コミュニティーリーダーシップ (Community leadership) は、学校がより広いコミュニティーに及ぼす影響を管理する責任を負います。

リーダーシップの役割は通常重複し、個人またはチームが教育的リーダーシップと学校リーダーシップの役割を共有することがあります。

学習 (Learning)

学校コミュニティーの文脈、目的、環境、および文化を証明した結果。IB ワールドスクールの最大の目的は、児童生徒の学習経験を促進し、改善することです。学習は学校コミュニティー全体を通じて発生するため、学校は児童生徒の学習が学校コミュニティーの学習と発展により豊かなものとなっていることも実証しなければなりません。

学習サポート (Learning support)

学習者がその可能性を最大限に発揮するための助けとなる教育的アプローチ、プロセス、およびツール。

保護者 (Legal guardian)

IB プログラムに登録した児童生徒の父母および保護者。一部のケースでは、児童生徒が法定年齢に達している場合、保護者に対する学校の義務は児童生徒本人にも適用されます。

有意義 (Meaningful)

学校コミュニティーの目的にとって重要であり、学校の環境および文化（またはそのいずれか）に影響を及ぼしていると明確に証明されていること。理想的には、それが児童生徒の学習に直接的かつ肯定的に影響を及ぼすという意味を含みます。

有意義なアクセス (Meaningful access)

学校のプログラムと児童生徒に肯定的な影響を及ぼす状況を創り出した結果。「アクセス」は、学校コミュニティーの関連するすべてのメンバーに公平かつ同等に与えられている場合、有意義であると考えられます。

モニタリングし評価する (Monitor and evaluate)

定期的にデータを収集・使用して、品質を決定したり、介入またはプロセスの発展に寄与する情報を与えること。

パストラルケア (Pastoral care)

学校での思いやりのあるシステムとプロセスの開発と実施（社会的および感情学習を明確に指導する人間関係とカリキュラム要素の強化など）。パストラルケアは学校の文脈や地域的および国家的要件に応じてさまざまな形式を取ります。

信念のある行動 (Principled action)

責任のある選択をすること。これには、場合によっては行動しないことを選ぶことも含まれます。信念のある行動は、個人的、地域的、およびグローバルな課題の倫理的側面を探究した後に実現できます。

プログラム (Programme)

「プログラム」という用語は、以下の2通りの用法で用いられます。

IB により創られ、学校により実践されるプログラムの枠組み。

プログラムの枠組みを実行し、IB カリキュラムを指導・学習する、学校内の明確化された存在。これには、リーダーシップ、スタッフ、児童生徒、およびプログラムをサポートするより広いコミュニティー

のメンバーや、カリキュラムを指導し学習するために割り当てられたすべてのリソースが含まれます。

プログラム資料 指導と学習部門のチームにより作成または出資された、学校全体で (**Programme documentation**) のプログラム、カリキュラム、またはコースの実践に関するコンテンツ。

プログラムの仕様 プログラムの要件を満たす方法を部分的に説明するプログラム固有 (**Programme specifications**) の説明と追加の要件。

促進する (Promote) 積極的に奨励し学校コミュニティに広めること。

提供する (Provide) 行動、プロセス、またはプロダクトを実行または完成させるために、学校内で機会、リソース、またはサポートを創り出すこと。学校側にとっては責任の一つとなる傾向がある。

目的 (Purpose) 学校コミュニティの文脈を構成し、IB の理念に沿った教育理念を成立させるための学校の努力。学校の目的はその環境および文化に影響を与えるべきものです。

追求する (Pursue) 積極的に学校内で取り組みや行動の機会を求め、自身のための機会を創出すること。通常児童生徒について言及します。

妥当 (Reasonable) プログラムの品質、選択、および持続可能性 (またはそのいずれか) を確保するのに適当なこと。学校は、基準、実践要綱、または要件は学校の文脈に関連したものであるため、それらを「妥当」に満たすとはどんなものかを定義する必要があるかもしれません。または、基準、実践要綱、または要件を「妥当」なやり方で満たすのに必要な条件を創出したことを示さなければならないかもしれません。

定期的 (Regularly) 規定や規則、および学校に基づくニーズや方針、または地域や国の要件を満たす頻度。学校はその頻度を調べ、それを証明しなければなりません。

要件 (Requirements) 本資料の中で、学校が IB ワールドスクールに指定され、継続的に留まるために必要とされる行動、提出物、またはプロセス。

リソース (Resources) IB プログラムを確立し維持するために不可欠な要素。リソースには以下のようなものが含まれます。

資金 (Funding) : プログラムの実施のために割り当てられた金銭。

人材 (Human resources) : 学校コミュニティの発展をサポートするために学校が雇用、または参加させる人々。

自然資源 (Natural resources) : 学習または指導に用いられる、自然界に存在する原料または物質。

設備 (Built resources) : 学校コミュニティを通じて活用される施設または構造物。学習スペース、ジム設備、乗り物、家具、コンピューター、モバイル機器などが含まれます。

仮想的リソース (Virtual resources) : 学習や指導、学校運営、またはより広いコミュニティとの交流に用いられるアプリケーション、ソフトウェア、またはオンライン上の空間。

規則や規定 (Rules and/or regulations) IB により指定された学校のための義務で、通常学校または評価部門が作成する。

- 学校 (School)** プログラムを実践する存在で、IB ワールドスクールと候補校の両方が含まれます。プログラムの運営と開発を確実に行うための意思決定者やスタッフ、およびリソースとシステムまでのすべてが含まれます。
- 児童生徒の成功 (Student success)** 学校コミュニティによって妥当に定義され伝達された、各児童または生徒個別の目標と期待に基づいた結果の組み合わせ。児童生徒の成功は外部評価、あるいは児童生徒の声が反映されない評価のみでは決定されません。児童生徒の成功という定義は、IB の理念に沿ったものでなければなりません。従って、「IB の学習者像」の人物像と国際的な視野に言及し、体現したホリスティック（全人的）なものになります。
- 指導 (Supervision)** 学校内の特定の目的のために指名または任命された指導者として行動すること。
- システムおよびプロセス (Systems and processes)** システムとは、物理的、仮想的、および社会的な慎重に検討され一貫性をもったアプローチを指します。学校が問題を解決したり、方針を実践、洗練、または実行したり、学校コミュニティでの交流の仕組みを提供したりします。
プロセスは、承認された一連の事象であって、学校コミュニティがどのように機能するかに影響を及ぼします。
システムとプロセスは共に作用する傾向があるため、多くの場合において一体化した存在として扱われます。
- 機会を利用する (Take opportunities)** 学校に存在する機会を受け入れ、行動をとる、プロセスを完了する、または成果物を完成させることを意味します。児童生徒について言及される傾向があります。
- 教師 (Teacher)** 学校コミュニティの学習と指導に直接責任を負う者すべてを指します。課外演習などについては学校は誰を教師とみなすかを定義する必要があります。これには図書館司書、テクノロジーの統合専門家、また学習サポートの専門家などが含まれるでしょう。
- 理解する (Understand)** 訪問、質問、またはその他の刺激に対して認識と知識を示すこと。
- 使用する (Use)** 特定の目的またはプロセスのために採用または利用すること。
- 知恵 (Wisdom)** 学校コミュニティの成長を支援するための見識を提供する、学校コミュニティにおける経験、専門知識、および情熱。

参考文献

- IB 資料『プログラムの基準と実践要綱』（2014年1月発行）
- 初等教育プログラム（PYP）IB 資料（英語版）『PYP: Principles into practice』（2010年10月発行）
- 中等教育プログラム（MYP）IB 資料『MYP：原則から実践へ』（2014年5月発行）
- ディプロマプログラム（DP）IB 資料『DP：原則から実践へ』（2015年4月発行）
- キャリア関連プログラム（CP）IB 資料（英語版）『CP: From principles into practice』（2015年12月発行）
- Barth, RS. 2006. “Improving Relationships Within the Schoolhouse.” *Educational Leadership*. 63(6), 8-13.
- Calvert, M. 2009. “From ‘pastoral care’ to ‘care’: meanings and practices” .*Pastoral Care in Education*. 27:4, Pp 267-277, DOI: 10.1080/02643940903349302
- Gedera, D and Williams, P. 2016. “Activity Theory in Education: Research and Practice” .Rotterdam, Netherlands. Sense Publishers.
- Grove, M. 2004. “The Three R’s of Pastoral Care: Relationships, Respect and Responsibility.” *Pastoral Care in Education*, 22:2, Pp34-38.
- Nilsen, P. 2015. “Making sense of implementation theories, models and frameworks.” *Implementation Science*. Vol 10.
- School Councils UK. 2015. “Getting Involved in The Wider Community.” Ipswich: Council Schools. <http://www.schoolcouncils.org/dl/SchoolCouncilsAndTheCommunity.pdf>
- Thomas, D and Seely Brown, J. 2011. *A New Culture of Learning: Cultivating the Imagination for a World of Constant Change*. Lexington, Kentucky, USA. CreateSpace.
- Thomson, P and Blackmore J. “Beyond the power of one: redesigning the work of school principals.” *Journal Of Educational Change* [serial online]. October 11, 2006;7(3):161-177. Available from: E-Journals, Ipswich, Massachusetts, USA. Accessed December 21, 2016.